



特集

「統一合判」

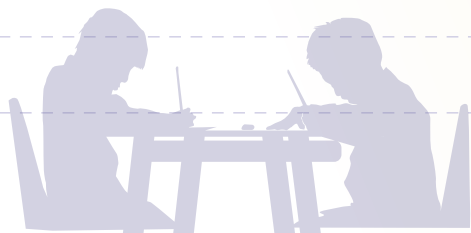
中学入試レポート

vol.

2

学校説明会& 見学会のポイントと、 夏休みの上手な過ごし方!

6年生になって、いよいよ本格的な受験勉強に取り組みはじめた受験生の皆さんは、夏休みを前に、さまざまな課題を感じていることだろう。同時に保護者の皆さんは、わが子の受験校を考えていくうえでの大切な時期を迎えた。この6年生の大事な時期に、保護者の皆さんはお子さんの生活リズムを良い形でサポートしてあげるのと同時に、わが子にとってベストの受験校選択をしていくためにも、これから先ぜひ多くの私学を見学に行ってもらいたい。とくに今年から来年に向けては、5年後の「2020年大学入試改革」とその先を見据えて、“日本の学校教育を変える”可能性を秘めた教育改革が、いくつもの私学で進行している。「21世紀を担う」わが子のために、そうした変化にも目を向けていただきたい。



首都圏模試センター

21世紀の教育改革の方向性をリードする 「私立中高一貫校の進化」に注目しよう！

今春2015年の首都圏中学入試の幕開け時期の1月11日（日）に実施された、小5「統一合判」第5回〈最終回〉では、現在の小6のお子さんたちがまさに直面する「2020年大学入試改革」について述べた。

続いて4月19日（日）に実施された新小6「統一合判」第1回の同レポートでは、今春の中学入試で目立った保護者の意識の変化と、「2020年大学入試改革」に象徴される、今後の日本の教育の変化について言及した。この2回の模試を受験して同レポートをご覧いただいた方のなかには、こうした動きをすでに意識されている保護者も多いことだろう。

これまでの「大学入試センター試験」が廃止され、①「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と②「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」が導入されることになる2020年からの新テスト制度では、①・②のテストとも「CBT方式」での実施を前提として開発され、②の「大学入学希望者学力評価テスト」では、従来の「教科型」に加えて、教科・科目の枠を超えた思考力・判断力・表現力を評価するための「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせた出題がされ、ここでは「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果等を実現するための力を評価する、PISA型の問題を想定」するとされている。

この新テストの可否は、今春の大学入試シーズン直後からマスコミでも盛んに伝えられ、関係者の間で論議されるようになってきているが、本質的な問題点は目先の制度や入試形態の変更にあるわけではない。この新たな大学入試制度が導入される目的は、この先のグローバルな世界・社会で生きていくために求められる課題発見・問題解決の力を育てるためであり、その改革のベースにある理念は、従来の高校教育や大学入試（＝日本の教育）で重視されてきた知識習得型の学力観・教育観そのものを大きく変革しようとするものでもある。同じく教育の課題として注目されている「日本語IB（国際バカロレア）プログラム」の導

入や「アクティブ・ラーニング」の導入推進の背景にも、こうした考え方がある。

そうした日本の教育の変化の節目に、「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」ともいわれる新たな学びのスタイルや、探究型のプログラム導入に、いま多くの学校が一斉に取り組み始めたといってもいいだろう。そして、私立中高一貫校のなかには、この方向性をすでにリードして、公立学校の数歩先に歩みを進めている「21世紀型教育」先進校がいくつもある。

今回の本誌「私学の魂」でご紹介した●立教女学院や、急速に進化している●大妻中野などは、そうした先進校の典型といえるだろう。男子の学校では●海城中高も、自校の教育のグローバル化を標榜してすでに多くの保護者に支持され、難関校のなかでは異彩を放っている。そのほかにも、今春の中学入試から共学化とともに校名も変更し、人気が大ブレイクした●三田国際学園、●開智日本橋学園といった、来春入試でも引き続き“台風の目”になりそうな注目校を筆頭に、●工学院大学附属、●文化学園大学杉並、●かえつ有明、●安田学園、●順天、●聖学院、●富士見丘などの気鋭の私学も、独自の強みやカラーを生かした「21世紀型教育」や「探究型授業」を掲げて受験生と保護者の注目を集め、人気を高めつつある。

そうした教育の新たなムーブメントも各ご家庭で意識しながら、保護者が大切にしている価値観に合った学校、そして何よりわが子が「生き生きと楽しく学べて、将来に向けた学力も身につけ、その過程でかけがいのない自分の価値と可能性



憧れの私学の体験授業やクラブ体験などに参加することが受験生のやる気を高める！
（写真は聖学院の個別相談・体験ブース）

※文中の●は男子校、●は女子校、●は共学校



に気づき、自己肯定観も高められる」ような私学を探していけるとよいだろう。

2016年は「サンデーショック」揺り戻しの年。男子は桐朋が2月1日、2日の2回入試に。

今春2015年の首都圏中学入試は、2月1日が日曜日と重なる「サンデーショック」の年であったために、来春2016年入試ではその“揺り戻し”の影響で、再び入試地図（とくに女子）が大きく変わることになる。この動きと影響による予想難度の変化については、〇〇ページのコラムで主なものを紹介しておこう。

また男子の入試でも、これまで2月1日の1回入試のみ実施してきた●桐朋が、来春は①2/1、②2/2の2回入試を行うことが5月末に公表され、他の男子の2月2日の受験校に及ぼす影響は大きいことが予想されている。

このほかにも、●法政大学第二の共学化や、●千葉県立東葛飾高に附属中学校が開設される、新たな公立中高一貫校の誕生など、各エリアの人気動向に及ぼす影響も少なくない。

そうした入試日や募集形態の変更以外にも、先の「21世紀型教育（次世代型教育）」や「世界標準（グローバル・スタンダード）の教育」、あるいは「探究型」授業、「学び合い」といった新たな学びのスタイルの導入に向けて、学校改革に着手する私学も非常に数多く出てきている。そして、こういった先進的な私学のなかには、この期に合わせて、これまでとは違った、新たなコンセプトの入試形態を新設する動きもある。

昨年入試から今春入試にかけて倍増した「英語（選択）入試」の増加や、この3年間で3倍の志望者数となった「適性検査型（思考力型・PISA型）入試」なども、そうした入試改革の一環といえるだろう。なかには●中村中のように、「学びの改革ZERO.1」という新たなコンセプトを掲げ、従来の中学受験生とは違った（スポーツや習い事などの）小学生時代の活動に打ち込んできた子どもたちの潜在的な資質や能力（＝ポテンシャル）を評価して受け入れ、新たな教育空間を創造しようとする私学も出てきた。こうした動きは、たと



今夏6月には中学棟新校舎も完成した桐朋中。素晴らしい教育環境が整った。

えば小6になってからなど、比較的遅い時期から中学受験や私立中高一貫校への進学を志した小学生と保護者にとっても、新たな進路の選択肢が増えたという意味で歓迎されることだろう。

いずれにしても、こうした様々な動きのなかで、わが子にとっての最適な進路（学校）を選び抜くポイントは、この「日本の教育が変わる」節目に、各私学がどのような教育をめざし、わが子が将来の社会でより良く生きていくための力を、どのように育ててくれるのかという点だろう。

私学は絶えず進化し、成長する。その教育の“現在”と“未来”のあり方を保護者が自身の目で確かめたい！

そういった私学の教育が、各家庭の価値観や、保護者がわが子に望むことにフィットするかどうかは、やはり保護者が自分で各私学に足を運び、直接その学校の先生から話を聞き、校内の雰囲気や在校生の様子を自分の目で見て確かめるしかない。そういう意味では、（わが子にとっての）良い学校を探し出すには、「なるべく多くの学校に足を運ぶ」ということに尽きるだろう。

しかも現在では、そうした学校見学や説明会に出かける候補校を探すための予備情報は、各私学の公式Webサイトや、受験関係のWebサイトから容易に探し出せるようになってきている。いろいろな私立中高一貫校のWebサイトを見てみると、いまでは多くの私学で、かなり多様な学校生活の側面や、教育内容の深いところまで紹介されていることがわかるはずだ。

さらに最近では、従来から行われてきた説明会

に加えて、オープン・キャンパス、体験授業、クラブ体験など、受験生自身が授業やクラブに参加することで、各私学の学校生活の雰囲気を感じ、それを保護者も一緒に感じ取ることでできる機会が数多く用意されるようになってきている。この1～2年の間に人気を高めている私学は、ほぼ例外なく、こうした「体験授業」の機会を充実させている学校だといってもよい。

しかもそれらの機会は、夏休み前の時期から各校で盛んに実施されていて、最近では、夏休み中にも多くの学校見学の機会が設けられている。そうした機会に保護者が、あるいは親子で積極的に参加し、多くの私学の特色や違いを感じることで、その後の学校選びに生かせるようになる。つまり、この7月以降、夏休みの期間にも、受験勉強のスケジュールを上手く調整して、親子で学校見学や体験授業など「私学に触れる機会」に出かけていただきたいのだ。

こうした機会に参加し、過去の評判や固定観念にとらわれることなく、「私学のいま（現在）」と「私学の進化（未来）」を知り、最新の「私学の入試問題（＝求められる力）」を知ることは、学校選びの貴重なヒントや、今後の学習の指針を得ることにもつながる。お子さんにとっても、これから先の受験勉強の励みになるだろう。

こうして、お子さんが挑む来春2016年入試に向けて、できる限り「視野を広げ」、1校でも多くの私学に足を運んで「幅の広い」学校選択を心がけていただくことで、きっとお子さんにとっての「最良の進路（＝進学先）」を探し出すことができるはずだ。

いよいよ6年生の夏休み。 ここから大きくステップアップを！

そして、もうすぐ夏休み。この期間は、約40日間もまとまった勉強時間がとれる、中学受験生にとってはとても大切な時期。受験勉強をスタートさせた時期は違って、それぞれの子もたちが、自分自身の学力的な成長のために、さまざまな課題を見つけて、それにじっくりと取り組んでいける貴重な時期でもある。

とくに、この夏休みの時期の過ごし方が6年生にとって大事なのは、この時期が、これまでお子さんが学んできた、ひと通りの中学受験に必要な知識や考え方の、ひとまずの完成期にあるということだ。9月以降には、それらの力をベースに、いよいよ実践的な問題演習に取り組み、本格的な入試学力の練成期～完成期に入っていく。この夏休みは、そのための助走期間としても大きな意味を持つ。

この7月初旬、すでにお子さんの夏休みの過ごし方は予定が固まっているだろうか。ふだんの小学校生活ではできない、学校外での体験の場や、秋の学校行事に向けての課題がある子どもたちもいることだろう。入試のスタートを半年後に控えた6年生は、そうした受験勉強以外の課題にもチャレンジしながらも、一方では中学受験に挑んでいくための学力アップに取り組み、それらを上手に両立させていく必要がある。

とはいえ、その両立のための計画づくりや、毎日の生活リズムの確立は、子どもだけでは難しい。だからこそ、そのためのサポートを、保護者の皆さんにお願いしたいのだ。

たとえば夏休みの過ごし方や目標も、意欲的で真面目なお子さんほど、いい意味で高い目標を掲げ、がんばろうと意気込みがち。もちろん、それで上手くいけばよいのだが、途中で計画が狂ってしまったときや、事前に掲げたスケジュールや課題が十分にこなし切れないときに、つまずいてしまいがちなタイプのお子さんもいる。

だからこそ、夏休み前に学習計画やその他の行動計画を立てるときには、ときどきの気分転換や楽しみになることも含めて、保護者が一緒に考えて、お子さんにとって実現可能な計画や、生活のスケジュールを組み立ててほしいのだ。

そうして、親子で上手く生活と学習のリズムを組み立て、個々の学習課題に取り組み、この夏休みを終えたときに、お子さんが自分自身で「がんばったなあ」と思えたならば、その自信や手ごたえが、今後の受験勉強にも、必ずいい影響をもたらすはずだ。



最新入試情報

2016年人気動向編

来春2016年の入試地図を変化させる“サンデーショックの揺り戻し”の動きとは？

●2015年の2月1日“サンデーショック”→2016年の“揺り戻し”による難易度の変化

すでにお伝えしたように、来春2016年は、2月1日が日曜日と重なった今春2015年の“サンデーショック”の揺り戻しの年。従来は2月1日に入試を行ってきて、今春のみ2月2日に入試日を移動したプロテスタント校を中心とする数校の人気校が、来春は再び2月1日入試に戻す動きが出てくる。この動きを中心に、とくに女子の入試地図には、そうした影響で、人気と難易度を変化させる学校がいくつも出てくる。

今春2015年には2月2日入試となり、来春2016年には再び2月1日入試に戻るの、女子学院、フェリス女学院、立教女学院、東洋英和女学院A、横浜共立学園Aなどのプロテスタント各校と、カトリック校である横浜雙葉、清泉女学院1期など。

一方、従来は2月2日入試を行ってきて、今春は2月1日入試に移行していた湘南白百合学園、鎌倉女学院1次などが、再び2月2日に入試日を戻す。こうした動きによって、女子の入試地図は、例年と大きく変化することになる。これによって、例年と併願パターンも変わってくるため、各校の人気動向や難易度の変化には、十分注意しておく必要がある。

その意味で今回の「統一合判」の志望動向や判定も踏まえて、これらの変化のなかで、各家庭の希望や価値観をしっかり定めて受験校を選んでいくことが大切だ。



今年6月7日(日)は、約2800組の東京私立男子中学校の親子が訪れた。本郷中高的のキャンパスに

2015年7月予想〈80%〉偏差値抜粋

【女子受験校】

入試日	学校(入試)名	2015結果	2016予想
★今春2/2入試に移行し、来春は再び2/1入試に戻る学校			
2/1	●女子学院	74	72
2/1	●フェリス女学院	70	69
2/1	●立教女学院	65	64
2/1	●東洋英和女学院A	64	62
2/1	●横浜共立学園A	64	64
2/1	●横浜雙葉	64	63
2/1	●清泉女学院①	57	56
★今春2/1入試に移行し、来春は再び2/2入試に戻る学校			
2/2	●湘南白百合学園	60	59
2/2	●鎌倉女学院①	58	59
★従来からの2/1入試校で、2015年入試結果偏差値が上がった学校。そのほか			
2/1	●桜蔭	75	74
2/1	●雙葉	73	71
2/1	●早稲田実業	73	72
2/1	●渋谷学園渋谷①	70	69
2/1	●洗足学園①	70	68
2/1	●吉祥女子①	67	66
2/1	●頌栄女子学院①	67	66
2/1	●鷗友学園女子①	66	66
2/1	●学習院女子①	66	65
★従来からの2/2入試校で、2015年入試結果偏差値が下がった学校。そのほか			
2/2	●豊島岡女子学園①	74	74
2/2	●慶應湘南藤沢	71	71
2/2	●青山学院	67	67
2/2	●白百合学園	67	68
2/2	●吉祥女子②	67	67
2/2	●洗足学園②	67	68
2/2	●光塩女子学院②	59	60

【男子受験校】

入試日	学校(入試)名	2015結果	2016予想
★桐朋の①2/1、②2/2、複数回入試の実施にともない、影響を受けると予想される男子の受験校			
2/1	●桐朋①	62	64
2/2	●桐朋②(※新設)	—	66
2/2	●城北②	63	63
2/2	●本郷②	69	67
2/2	●攻玉社②	69	67
2/2	●世田谷学園②	66	65
2/2	●明治大学明治①	68	67

※一部、学校から未公表の入試日は推定による

学校説明会では、こんなことがわかる！

～何より私学の熱意と将来性を確かめよう～

これから秋にかけて、私立・国立中高一貫校では、学校説明会やオープン・キャンパス（学校見学会）、体験授業など、受験生と保護者が「学校を知る（見る）」ことができる、さまざまな行事が行われる。各校で開催される文化祭、体育祭も、9月～11月にかけてがピークとなる。

わが子に合った学校を選び出すために、こういった学校見学の機会には、できるだけ数多く足を運んでいただきたいと思う。それが「学校を選ぶ目」を確かなものにする方法のひとつだからだ。

そのなかでも、「学校説明会」は、やはり各学校の考え方や、具体的な指導内容を知るための良い機会だ。ここでは簡単にそのポイントをお伝えしておこう。

●私学の「説明会」で話される4つの柱

1. 「教育理念・教育方針」と「目標・将来展望」
～保護者の考えや期待と合うかどうか？
2. 「中高6年間の学習指導・カリキュラム」
～わが子の力をどう伸ばしてくれるか？
3. 「入試状況・出題傾向」
～どういう入試が行われるのか、またそこではどういう力が問われるのか？
4. 「進路指導と進路状況（進学実績）」
～将来の進路に向けての指導内容・体制は？またこれまでの進学実績と今後の期待値・目標値は？

私学の説明会では、一般的にこの4つを軸に話がある。いずれも各校の教育内容を見極めるうえでは非常に大切なこと。好印象を受けたことや疑問に思ったことは、しっかりメモに残して、最後に受験校を絞り込むときの参考にしよう。

そして、これらの話のなかで、いま注目したいのが、先に本文でも述べたような「2020年大学入試改革」への対応と、現在の子どもたちが社会に出る新たな時代（2025年以降）の状況を各私学がどう読み解き、この日本の教育が変わる節目に、将来に向けてどういう力を生徒に身につけさせ、育てようとしているのかを確かめることだ。

併せて意識しておきたいのは、その話の内容や先生方の姿勢から、その学校の“熱意”や“将来性”を感じ取ることである。この点は、世間の評価や噂話からではなく、やはり「親が自分自身で確かめる」ことが大切だ。

また、これらの説明のあとに、「質疑応答・個別相談」や、「校内見学・授業見学」ができるケースも多い。わからないことはその場で遠慮なく質問してもいいし、あるいは後日、学校や塾に問い合わせ確認してかまわない。

また、こういった学校見学の機会を通じて、次のような点もチェックしておこう。

1. 受付や先生の対応は親切か？（学校の体質や先生方の熱意を確認！）
2. 在校生の服装や言動は？（学校の雰囲気、生活指導、しつづけを確認！）
3. 施設や設備の充実度は？（華美でなくとも、生徒本位に工夫された環境かどうか？）
4. 防災対策（耐震等）や被災時のための備えは？（いざというときの安全性を確認！）
5. 学校までの利用交通機関と周辺環境は？（利便性、安全性を確認！）

とくにこの数年は、先の震災時の対応なども参考にして、その後の各校の防災、安全対策がどのようになっているかも、保護者にとって確かめたいポイントのひとつになっている。

また、最近では「SGH（スーパーグローバルハイスクール）」指定校の選出や、「日本語IB（国際バカロレア）」の導入など、“教育のグローバル化”の動きも加速しており、各私学がどのようなグローバル（国際化）教育をめざしていくのか、さらには21世紀型スキルともいわれる「新たな時代に求められる力」を育てていくために、各私学がどのような授業スタイルや教育プログラムを導入しているのかも注目すべき点だろう。



私学と公立学校の最も大きな違いは、独自の教育理念と、自由で柔軟な教育プログラムの有無。その点をしっかりと確かめておきたい。



最新入試情報

2016年人気動向編

来春2016年の人気動向を変化させる私学の教育・学校改革！

～最新の入試状況をつかみ、変化のなかに新たな注目校や合格へのヒントを見出そう！～

●①2/1、②2/2の2回入試を実施する桐朋の素晴らしい新校舎と「次の学びプロジェクト」に注目を！

来春2016年入試での入試改革として、これまでは2月1日のみの1回入試を実施してきた●桐朋〈東京都国立市。男子校〉が、来春は、①2/1（定員約110名）、②2/2（定員約70名）の2回入試を行うことが、去る5月27日に公表された。これは男子の受験生にとっては、かなり大きなニュースだ。

この数年、新校舎の建築工事の影響などもあって、人気と難易度がやや低下傾向にあった同校だが、来春2016年入試では、再び注目を集めることが予想される。

2012年からスタートした新校舎建築とキャンパスの全面リニューアルは、2013年6月の教科教室棟の完成、2014年6月の共用棟・新高校棟の完成を経て、今夏2015年6月には、新中学棟が完成。6月末には中学生が真新しい校舎に引越しをして、7月からは新たな教育環境で生徒たちは過ごせる形になる。

そして桐朋中学・高等学校では、この新校舎建築を期に、2013年から「次の学びプロジェクト」をスタートさせ、次世代の子どもたちに必要な力を育てるための、新たな教育のあり方を検討し、その実践のために必要な環境や設備を、新校舎の設計に反映してきた。

そして、中学生、高校生とも完成した新校舎に移り、新たな学校生活を歩み始めたこの期に、「これからの桐朋教育」を世に伝え、そこへの評価を問うために、来春2016年の中学入試では、大きな改革に踏み切ったという。



来春2016年4月から共学化し、女子60名を受け入れる法政大学第二。

その「次の学びプロジェクト」では、これまで桐朋中高が大事にしてきた「自由闊達・自主性尊重の校風」や「豊かな心と高い知性を持つ創造的人間の育成」を変わらぬ教育目標に掲げつつ、「2020年大学入試改革」はもとより、その先の社会で求められる新たな力を、独自の教育の工夫のもとで育てていくという。

もともと武蔵野の自然を豊かに残す広大な施設・環境を持っていた桐朋中高。さらに今夏素晴らしい新校舎・キャンパスが整った。そしてこの「次の学びプロジェクト」による「新たな桐朋教育」が多くの受験生と保護者に評価されると、再び人気と難易度を高めることになるだろう。今後の人気動向に大いに注目しておきたい。

●共学校となる法政大学第二の女子募集定員は、計60名〈①40名、②20名〉に！

早くから予定が公表されてきた通り、●法政大学第二〈神奈川県川崎市。●男子校〉が、来春2016年から中学・高校ともに共学化される。今回の共学化は、それまで吉祥寺にあった●法政大学第一中高を2007年に三鷹市に移転し、●法政大学中高への校名変更と共学化を同時に行った改革に続く、法政大学の付属校改革の第二ステージと位置づけられている。

同校では、この期に新校舎建築に着手し、すでに2014年4月には第一期工事が完成し、教室や体育棟・文化棟が新しくなっている。来春2016年4月には講堂や図書館・食堂が新築される。この共学化にあたって、校名変更はないが、制服は（男女とも）一新される。

現段階で公表されている来春2016年の入試要項（予定）は下記の通り。

- ①2/2 男子100名・女子40名 4科
- ②2/4 男子50名・女子20名 4科
- 帰国生入試 1/10 男女各若干名 2科

入試日は今春2015年入試と変わらないが、男子の募集定員は従来の175名より25名削減されることになり、帰国生入試が新設される。新たに募集される女子は男子より募集定員が少ないため、難易度もやや高くなる可能性が大きいだろう。

6年生にとっての、夏休みの上手な過ごし方！

～実現が可能な計画をつくり、自分が学習してきたことを振り返りながら前に進む～

●夏休みの課題や学習計画をつくるときに！

夏休みは、40日間もまとまった勉強時間がとれる大切な時期。中学受験に成功した先輩たちの多くが、あとでその時期のことを振り返って、「よく頑張ったなあ…」とか「あんなに勉強した時期はほかになかった！」と口にするように、この夏休みの過ごし方や努力が、大きな意味を持つ。

そうしたなかで、上手な生活（＝受験勉強）のリズムをつくるコツは、なるべく「無理な計画を立てない」こと。あまり意気込んで、「あれも、これも…」と課題を増やし過ぎては、かえって逆効果。手を広げ過ぎず、実現可能な課題に順位づけをして、ひとつずつ、しっかりと取り組んでいく姿勢を大事にすることだ。

夏休みは、それまでに学習してきた知識や考える技法を使って問題演習に取り組むなど、そうした力を定着させるためにまとまった時間を使える貴重な時期。だからこそ、焦らず、欲張らず、実現可能な計画を立てて、毎日少しずつでも達成感を感じられるような学習リズムで過ごすことができると良いだろう。

ただ、意識しておきたいのは、単に「がんばる」とか「成績をあげる」といった意気込みだけでなく、どういう課題に、どのように取り組むのか、できるだけ具体的な目標を立てること。

また、そうした学習計画は、完璧にこなさなければいけないものではなく、そのときどきの状況によって見直しをして、変えていってもいいものと考えておくとよい。何よりこの夏休みの親の大事な役割は、子ども自身が、やる気や日々の達成感を少しずつでも自分で感じられるように接してあげることだろう。

●塾での夏期講習で力を伸ばすには？

塾での6年生の夏期講習は、ある程度長い日数や時間をかけて、それまでに学習してきたことを、さまざまな演習問題に取り組むことを通して、自分で「使える力」として定着させることを狙いしているケースがほとんど。それだけに、夏期講習の開始までに、自分が苦手なところ、不得意なことは何かを明らかにしておきたい。そして、塾の夏期講習のテキストや資料を見て、この夏の間



夏休みは中学受験生にとって大きな学力的成長が期待できるとき。無理のない計画のもとで学習に取り組みめると効果は大きい！

に、いつ、どのような分野・単元を学習するのか、あらかじめつかんでおく。そうすることで、自分の課題に沿った努力目標や、がんばるべきポイントもわかってくる。

次に、夏期講習の授業では、できれば前日まで、今回はどの単元を学ぶのかを確認したうえで、授業に臨めるとよいだろう。そして、これまでにその単元や範囲を学んだテキストやノートを見直して、自分が学んだことを思い起こすことができれば準備は万端だ。

それは「予習」とは違って、これまでの自分の学びを振り返って、新たな課題に取り組む気持ちの準備を整えること。自分が学習で身につけてきたことや、まだ足りないことを、自分自身の課題として見つけることができるのも、長い夏休みならではの、メリットのひとつと考えておきたい。

また、夏休みの講習は、多くの場合、問題演習が中心になるために、子どもたちは、自分の解答が「マルか、バツか？」ということに気をとられがち。しかし、大切なのは、そうした問題への取り組みを通して、自分が「どのように考えたのか」、「なぜ、そういう考え方（解き方）を選んだのか」を確かめておくこと。それが基礎・基本を確かなものにするために最も有効な学習方法だと考えておくとよいだろう。